

# 金属材料研究所新型コロナウイルスルールブック

新型コロナウイルス対策チーム 2022. 12. 16Ver. 7

## I はじめに—新型コロナウイルスの今と求められるルール

2019年12月に始まった新型コロナウイルスの世界的流行は、3年目迎え、確定した累計感染者数が日本の人口の約1/4となり、ワクチン普及と併せた集団免疫力の向上により、以前より落ち着きを見せて来ました。対面の講義や学会も増え、海外との往來の制限もほぼ撤廃されるなど、ゆっくりと正常化しつつあります。インフルエンザと新型コロナウイルスを比較すると、非常に効果的で広く使える治療薬はまだないものの、感染症の中での新型コロナウイルスの位置づけの変更も予定されています。このような中で、これからもあるであろう新型コロナウイルスの時々流行を前提として、継続的な感染症に対する取組を日常活動の中に取り込んで、前へ進んでゆく状況になって来たと言えます。そのために我々が守るべきルールとはどのようなものなのでしょうか？

### ルール1 日常的な健康の維持

感染症に対応するために最も大事なことは、まず、各自が日常的に健康を維持し、無理を重ねて体調を崩さないよう活動することです。健康を維持することは、免疫力を効果的に働かせる大前提です。メンタル面でも余裕を持ち、リラックスし、疲れすぎないことは、健康維持の基盤となります。健康管理の重要さは、パンデミックの中で、あらためて学んだ教訓と言えます。

### ルール2 体調が悪い時は休みを取る

コロナ前を振り返ると、多少体調が悪い中で仕事をしたり、風邪など他人に感染する病気でも、職場で普通に活動していた経験は誰しもあると思います。インフルエンザや新型コロナウイルスのような感染症になったら、休みを取り、他人への感染を避ける、休むまでも至らない不調でもテレワークなどを活用する。体調が悪い時は必ず休みを取るという、当たり前のことを守る、これも大事なルールです。

### ルール3 リスクを考えた自主的な行動管理

感染症のリスクには波があります。流行していない時は、特に注意しなくても感染はしませんが、流行時には自らリスクを考えて行動管理を行うことが必要です。実際、流行がピークアウトする原因として、流行時には注意深く抑制的な行動を取る人が増えることが報告されています。このような、自主的な行動管理によって、感染症と上手くつき合ってゆくことは有用で効果的です。

### ルール4 相互理解と寛容さ

社会には様々な人が一緒に暮らしています。例えば日本におけるガンの生涯罹患率は50%を越え、多くの方がかかる病気となっています。免疫抑制の薬などを用いて、治療を続けな

がら社会生活をされる方にとっては、感染症は大きなリスクです。現在、高齢者、妊娠している方、持病を持つ方などに対して焦点をあてた保健所等の対応が行われているのはこのためです。また、新型コロナウイルスに対する捉え方も様々です。様々なリスクを持つ方、異なる考え方を持つ方がいることを理解し、相互理解と寛容さを保つことは今後も大切です。

## II BCP1 の下での個人が守るルール

### ルール 1: 新型コロナウイルスの可能性のある症状が出た場合

- 1) 速やかにテレワーク、自宅待機とする
- 2) 症状が出た前日、前々日に、a) どちらかがマスク無しで会話した、b) 1 m程度の至近距離で長時間過ごした、のいずれかに当てはまる人は、陽性となった場合濃厚接触者となるので、連絡して警告する
- 3) 発熱したら、医療用抗原検査キットなどでチェックを行う
- 4) 症状が軽い場合は自宅で療養、重い場合は速やかに病院を受診する

### ルール 2: 陽性や濃厚接触者となった場合

- 1) 新型コロナウイルス対策チームへ報告する。学生の場合は研究科窓口へ報告(新型コロナウイルス対策チームへメールで cc)
- 2) 大学のフローチャートに従って必要な期間自宅待機を行う  
[https://www.bureau.tohoku.ac.jp/covid19BCP/pdf/condition/flow\\_jp.pdf](https://www.bureau.tohoku.ac.jp/covid19BCP/pdf/condition/flow_jp.pdf)
- 3) 自主検査での陽性や医療機関からの発生届けの対象外の場合は、市や県にインターネット経由で陽性者登録を行う。

### ルール 3: 日頃から備えを行う

- 1) 流行時には、体温計、パルスオキシメーター、解熱剤、風邪薬、医療用抗原検査キット、飲み物、ジェル飲料、冷凍食品、保存食品などを準備しておく。



## 検査について

### 1) 医療用抗原検査キット

医療用抗原検査キットは、発熱など症状があるときの確認用としては有効ですが、自己採取による検体のバラツキや感度の限界のため、無症状時のスクリーニングは適していません。海外出張時の発熱などに備えて持参することや自宅にストックしておくことは推奨します。

### 2) PCR 検査キット

PCR 検査は、感度が高いため、無症状の場合も検出可能です。流行時は検査場には一定の割合の陽性者がいることも考えれば、郵送検査などの活用が望まれます。

### III BCP1 の下での職場の対策

#### ルール 1-換気対策の徹底

- 1) 部屋を定期的に換気する。
- 2) 会議室は CO2 モニターなどで監視して、換気を行い、清浄に保つ。
- 3) 感染を防止する不織布マスク等を着用する。
- 4) 空気清浄機などを利用する。
- 5) 業務場所が過密にならないように注意する。

#### ルール 2-衛生管理の徹底

- 1) 日常的な衛生管理を徹底する
- 2) 適切なタイミングで、手洗いをを行う。そのための物品を整備しておく。
- 3) 日常的に職場の清掃を行い、良好な環境を保つ。

### IV BCP1 の下での出張

#### ルール 1 国内出張のルール

- 1) 出張届けを提出する。Google フォームの登録は BCP1 では不要
- 2) 体調不良に備えて、保険証の情報の保持、常備薬の持参等を行う。
- 3) 体調不良の時は速やかに出張を中止し、必要な場合は病院を受診する。
- 4) 出張先のルールを遵守する。
- 5) リスクに応じた対策を立てて行動する。

#### ルール 2 国外出張のルール

- 1) 出張届けを提出する。
- 2) 引き続き大学への報告が求められていますので、新型コロナウイルス対策チームポータルから Google フォームで事前登録を行う。
- 3) 感染症危険情報レベルが 3 以上の地域への出張の場合、新型コロナウイルス対策チームに事前相談する。
- 4) 体調不良に備えて、体温計、抗原検査キット、常備薬の持参等を行う。
- 5) 適切な旅行保険に加入し、病院の紹介などが受けられるサポート窓口の連絡先を把握しておく。
- 6) 現地で体調が悪化した場合は、病院を受診する。
- 7) 陽性となった場合、帰国の航空機への搭乗可の条件は航空会社に確認する。
- 8) リスクに応じた対策を立てて行動する。

#### ルール 3 出張後のルール

- 1) 出張後の待機期間は、国内、国外とも設けませんが、健康観察の強化を行う。
- 2) 体調不良の場合は、速やかにテレワーク、自宅待機とする。
- 3) 新型コロナウイルスが疑われる場合は検査を行う。

## V 外来者、共同研究、来訪者受入

### ルール1 共同利用以外の来訪者は google フォームで登録

- 1) 立ち入り前に来訪者の登録 google フォームで登録してください。
- 2) 業者 QR コードによる立ち入りも可能です。
- 3) 体調が悪い方、濃厚接触者、陽性者は立ち入りが出来ません。

### ルール2 共同利用利用者は共同研究届けで事前登録

- 1) 学内含めて、事前に登録を行う。
- 2) 体調が悪い方、濃厚接触者、陽性者は立ち入りが出来ません。
- 3) 陽性や濃厚接触者となった場合は、待機期間終了後に、健康状態が良好であることを確認の上、あらためて登録して下さい。待機期間終了前に、終了日を予想して事前に登録しておくことは認めません。
- 4) 実験や現場作業を行う来訪者は、怪我や事故に対応する保険、責任賠償保険に加入し、適切な安全教育を受けていることが必要となります。

## VI イベントの開催

### ルール1 50名を超えるイベントの事前登録

50名を超えるイベントで金研の会議室、施設を使う場合は、事前に会議室の利用登録もしくは新型コロナウイルス対策チームへの連絡を行う。

### ルール2 東北大のイベントガイドラインの遵守

東北大のイベント開催のガイドラインを遵守する。

[https://www.bureau.tohoku.ac.jp/covid19BCP/pdf/campus/event\\_guideline\\_ja.pdf](https://www.bureau.tohoku.ac.jp/covid19BCP/pdf/campus/event_guideline_ja.pdf)

## VII 地震・火災等他の災害が発生した場合

ルール1 地震・火災等他の災害が発生した場合は、避難と安全確保が最優先するため、感染防止については、避難が完了し、安全が確認されるまでは優先事項としない。

- 1) 避難場所については、従来の計画通り指定された場所とするが、集合した後は、グループ間で出来るだけ距離を取り、必要以外の会話は行わず静粛を保つ。
- 2) ヘルメットに装着したマスクを煙対策と感染防止のために、速やかに装着する。
- 3) 安全が確認後、引き続き所外で待機する場合は、指揮統制班は、避難場所を分散させるように指示する。
- 4) 大規模地震等の場合は、対処に不要な人員を帰宅させ、密度を下げることで感染防止を図る。
- 5) 避難場所や指揮統制所を開設する場合も、感染防止を考慮して、密度を下げる。

## VIII BCPが上がった場合

BCPが上がった場合は、新型コロナウイルス対策チームより対応方針が出されます。